

【主 導】
農業経営体

【農福連携のパターン】
農作業委託

【工夫点】
働きやすい環境づくり

【効 果】
農家の作業負担軽減

■活動主体の概要

- ・ 営農場所（面積）
鹿屋市野里町周辺（約4ha）
- ・ 生産品目
紅はるか、水稻、ハウス（軟弱野菜の高設栽培）、菊芋等
- ・ 農業従事者
ひまわり農苑 3名
太陽の丘 8名

■活動の背景・目的

- ・ 同グループ内の「太陽の丘」から 農福連携を通して、利用者の自発性や活躍の場を広げてほしいと相談を受けたことがきっかけ。

■農福連携の取組体制・取組内容

【農作業委託（施設外就労）】

- ・ 同グループ内の太陽の丘から、農繁期に3～8名受け入れている。グループ内連携のため、ひまわり農苑の従業員も利用者の個性を把握・理解しており、なごやかな雰囲気です農作業に取り組んでいる。
- ・ 利用者の指導は、農業従事経験のある太陽の丘の支援員が行っている。
- ・ ひまわり農苑の作業員は、定期的に太陽の丘の施設内で、昼食を利用者と一緒にとるなど、コミュニケーションを密にしている。

■農福連携の取組の工夫点と効果

【利用者の適正にあわせた作業・作業環境への配慮】

- ・ 利用者の方は、一人ひとり個性的で、できる作業の幅も異なるため、利用者の適正を見極め、以下のように作業を分担している。
例) ツル切り機を使用する人、切り残したつるを手作業で切る人、掘った芋を箱に入れる人、箱に入った芋を選別する人など
- ・ 高設栽培で軟弱野菜を生産し、車椅子の方でも作業がしやすいように工夫している。



【効 果】

- ・ 障がいがあっても作業能力は経験を積む毎に上がっており、3～5年のスパンで考えれば、十分に農業分野で活躍してくれると期待している。
- ・ 同グループの太陽の丘からも、農福の効果として利用者の表情が明るくなり施設の雰囲気よくなった、利用者にも自発性が芽生えたとの声を聞いている。

